

学生のアイデアを引き出そう！

八雲町×上智大学 交流事業

2月20日～22日、上智大学の学生7名が八雲町との交流事業で来町しました。

3回目となる今回は「産業の担い手対策と物産振興」をテーマに、2泊3日の日程で八雲町の農業・漁業の学習をしたほか、「ふるさと納税を活用したまちづくり」へのアイデア発掘のためのワークショップ等を実施しました。漁業の学習では、漁師の方を講師に迎えて、「ホタテ養殖」をテーマにホタテが出荷されるまでの工程を学び、農業の学習では酪農の現場を視察し、酪農の課題、現状等について学びました。さらに、町特産のもち米を使った餅つきと、もち料理を農家の方の手ほどきを受けて楽しむとともに、北海道の雪も楽しんでもらいました。ワークショップでは、漁業・農業の学習、また、事前学習で得た八雲町や町産業の知識を活かし、ふるさと納税のPR方法や活用方法、また、八雲の魅力、資源を活かしたまちづくりについて活発な議論が行われ、ふるさと納税を通じ、「八雲を「知る」から「来る」に繋がられるよう、八雲の素晴らしさを体験できるツアー」を返礼品として提供してはどうかなどのアイデアが寄せられました。



八雲町の農業を肌で感じる！

八雲町×北里大学獣医学部 動物資源科学科インターンシップ

3月2日、青森県十和田市の北里大学獣医学部動物資源科学科の学生3名が八雲町北里大学交流推進部会が主催するインターンシップ事業のため来町しました。

4泊5日の日程で、春日の(株)学林ファームで朝夕の搾乳作業や子牛の哺育、ロボット牛舎の管理などを体験し、上八雲の北里大学八雲牧場では北里八雲牛の体重測定や冬期の飼養管理方法などを体験したほか、日本フードパッカー(株)道南工場や森町の北海道道南畜産事業協同組合、渡島家畜保健衛生所 B S E 検査室で、八雲町の酪農畜産を取りまく関連産業の現状などを学習しました。

参加した学生は「酪農畜産の現場を学習する貴重な経験になった。普段自分達がいかに第一次産業に関わる方々に支えられているかを改めて感じた。」と話しており、来年度以降のインターンシップ事業の継続が期待されるそうです。



3年間の成果を発表！

八雲町×日本大学 八雲演習林の 動植物調査ならびに森林資源の 有効活用に関する調査結果報告会

2月20日、はぴあ八雲で、報告会が行われ、約50名が参加しました。

日大生物資源科学部の研究グループ代表である井上公基教授の講演では、上八雲で希少な白毛のヒグマの動画撮影に成功したのを受け、白いヒグマの子も白毛となるかを含め、ヒグマの生態の謎の解明に向けて、今後も追跡調査を行うことを明らかにしました。

白いヒグマは、研究グループが設置した熱感知カメラが2016年～2018年にかけて6回捉え、同一の雌とされており、北海道本島で繰り返し撮影された例は珍しいとのことで、井上教授は追跡調査について、「ヒグマの生態に圧力を与えないことを前提に、新たな研究テーマを検討したい」とし、同学部の森林資源科学と獣医学、動物資源科学の3科が連携して進めていく考えを示しました。

